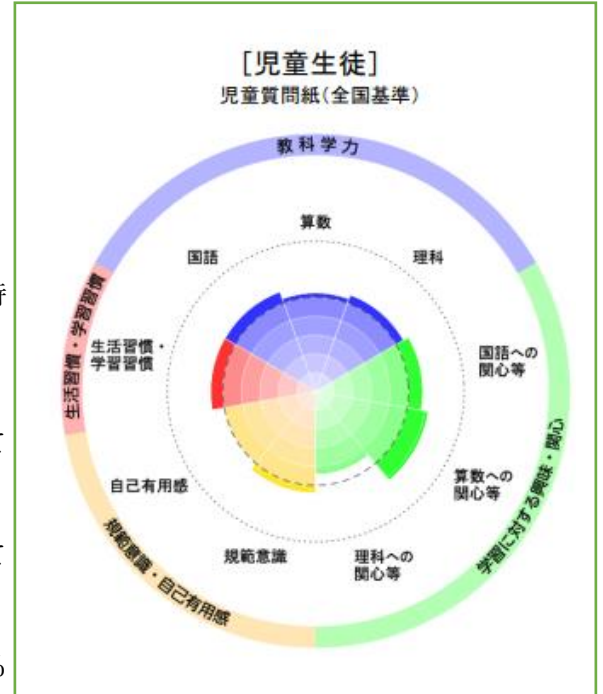


## 令和4年度 全国学力学習状況調査 結果と分析

第6学年が対象に令和4年4月19日に行われました「全国学力学習状況調査」の結果と、その分析についてお知らせいたします。調査の結果を踏まえ、学校での取り組みについてまとめましたので、ご覧ください。

### 【結果と分析】

- ・教科学力においては国語・算数・理科ともに全国の平均以上の数値が出ていることから、しっかりと学力がついていると言える。
- ・国語、算数への関心が高く、全国の平均を大きく上回っているが、理科への関心が全国の平均を下回っている。
- ・国語では、国語全体の平均値が全国平均より4.4%高い。特に、「書くこと」「読むこと」の平均値は10%程度高い。一方、「話すこと・聞くこと」は、全国の平均より1.5%低く、漢字の設問については5.4%低い結果となっている。
- ・算数では、算数全体の平均値が全国平均より0.8%上回っている。「図形」の領域で0.2%全国平均を下回り、それ以外は全て全国平均を若干上回る数値が出ている。
- ・理科では、理科全体の平均値が全国平均より3.7%上回っている。器具の名称を記述して答える設問では84%の児童が正答し、全国平均値を16.2%上回った。一方、実験の結果を根拠に自分の考えを記述する設問では、全国平均を5.8%下回った。
- ・生活習慣に関しての調査でも、回答の多くが全国の平均以上の数値を出している。例えば「自分に良いところがあるか」「将来の夢や目標をもっているか」に関して、平均値を大きく上回り、自己肯定感が高いことが分かる。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」に関して、全員が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答し、平均値を大きく上回ったことから、いじめに対する認識が高いことが分かる。
- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」という回答では、全国平均値を下回っている。また、コロナ禍以降、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか」に関して、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童が減少している。自分を表現して認められたいという願いが強くなっていることが分かる。



### 【結果を受けた学校での取り組み】

#### 自分の考えを表現する機会を増やす

…課題が見られた点（①国語「話すこと・聞くこと」で、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い自分の考えをまとめること、②理科で、実験で得た結果を分析して解釈し自分の考えを記述すること）を踏まえ、授業の中で自分の考えを整理してまとめたり、友達に説明をしたりする機会を増やし、目的意識や相手意識を明確にした自己表現力の向上を図る。

#### 具体的な事象・場面を扱う

…算数では、図形についての学習に課題が見られた。どの学習においても子どもたちの生活に即した具体的な事象や場面を取り扱って学習を展開することで、子どもが自分の生活と結び付けたり、学習問題から具体を想像して主体的に取り組めたりするようにする。

#### 人とのつながりを意識した学習活動

…生活科・総合的な学習の時間、その他の学習において、友達や地域の方々とのつながりを学習の中で意識していくことで、他者とつながることの必然性や意義について感じることができるようになる。